

政権交代でどうなる私たちの暮らし

・・・新福祉国家を考える講演会＋パネルディスカッション・・・



不況の打開は垂直的所得再配分

～金のあるところから、

ないところへの再配分で消費を活性化～

1月28日、岐阜市で”新福祉国家を考える「政権交代」どうなる私たちの暮らし”と題して、二宮厚美氏（神戸大学教授）を迎えて、講演会とパネルディスカッションが行われました。

二宮氏は民主党政権について、党の新自由主義的構造改革路線の下半身部分と、総選挙での勝因となった「脱構造改革」の上半身部分がネジレて矛盾が起きていると分析。そして、現代

日本における当面の三大難問は、①格差・貧困問題に代表される「社会的破局」、②世界同時不況の中の「経済的破綻」、③国、自治体を襲う未曾有の「財政危機」であると話されました。

格差社会が現在の不況を引き起こしています。貧困がある一方で、一部の人が場所に富の蓄積があり、この格差の是正、格差社会の克服を行うことが重要です。現在の不況の打開は、

①大企業の内部留保など過剰に蓄積しているところから税を集め、貧しいところにお金を回す

②社会保障を充実することで貯蓄しなくても安心して生活できるようにし、消費を活性化させる
この縦の格差をなくす「垂直的所得再配分」の再構築しか、現在の停滞を打開できません。

人間関係の貧困をどうするか・・・社会保障の現物給付の充実が大事

パネルディスカッションの中で、派遣村など現代の貧困問題について、二宮氏は「お金がないこと以上に問題は人間関係が崩れていることだ」と指摘。「人間は生きていくうえで、自然からの物質代謝（労働）とともにコミュニケーションによる支え合い（人間関係）の、2つの面が必要」と。現代の貧困はお金だけでなく、人間関係を築かないと問題解決できないことを強調しました。

また子どもの貧困対策も「子ども手当」だけではなく、保育や教育など現物給付による社会サービス保障が大切ですが、これを市場化する民主党政権の政策は問題だと指摘しました。

民主党の乱暴な保育制度改革

民主党政権になって保育制度改革の動きが急速に強まっています。

政権成立早々、児童福祉法で規定されている、保育所の最低基準の緩和を容認したり、12月には民間保育所の運営費の一般財源化が急浮上し、保育関係団体などで国会内反対集会が行われ、22年度は取りやめになる一幕もありました。

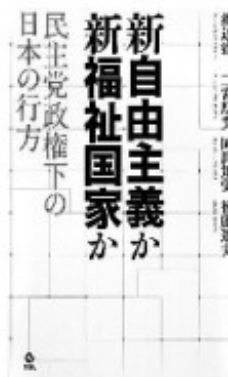
また、菅直人財務相は緊急経済対策の一環として、保育分野に「利用者」と事業者の契約制度導入などをあげ、規制緩和で民間企業の参入を促す方向を打ち出しています。これらは保育の現物給付の公的責任を放棄するものです。

「新自由主義か新福祉国家か」

今回、講演・シンポジウムで話をされた二宮先生も参加されている本です。

本書で世界同時不況は新自由主義政策の必然の結果であり、その恐慌の構造を明かにし、福祉国家型財政への転換で財政危機の克服を提唱する二宮論文や、新自由主義的構造改革によって疲弊した地方の状態を克明に明かにし、その中から生まれてきた新しい政治の流れや自立したまちづくりについてレポートする岡田論文など、4人の社会・経済学者が民主党政権下の日本の行方を緻密な研究の上に考察しています。ぜひ、ご一読ください。

（『新自由主義か新福祉国家か』、渡辺治、二宮厚美、岡田知弘（京都大学教授、大垣ゆかりの人です）、後藤道夫、旬報社、2009年12月、2415円）



←党大会が開かれました。

日本共産党は党の方針を決めるのに、地域から選挙で選ばれた代議員によって討論し、方針を訂正し、採決する民主的なプロセスを設定しています。今回はJA全中の富士専務や元経済同友会の革新懇の品川代表、各国の大使などの来賓も参加しました。

新婦人親子リズム小組 子育て支援について懇談

1月20日、新婦人・親子リズムのメンバーが、大垣市子育て支援課と懇談しました。

新婦人・親子リズム小組は、各地の地区センターで親子リズムなどの活動を行っていますが、市が今後、地区センターを子育て拠点に位置づけていく上で、利用者として感じた不便な点について、予め改善を求める要望書を提出していました。

この日は1、2歳児の子供連れのお母さんも参加しての懇談となりました。出席者の中から、「転勤で大垣に来たが子どもを遊ばせる場がなく、雨の日は大変困っている」、「2～3歳ごろから活動できる児童館がほしい」、また「〇〇の地区センターは階段がキケン」など、具体的な危険箇所も指摘されました。

大垣市が出した「子育て支援計画」では「子育てサークルの育成」を掲げています。お母さん連自身が子どもの遊びを企画・運営できるような、自主サークルがたくさんできることを狙っています。そのため、行政には安全な場所の提供などハード面での支援が求められます。

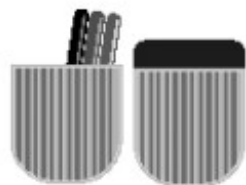


12月議会報告

市街化調整区域公共下水道事業 受益者分担金（案）が出される

平成22年度より、市街化調整区域を対象に大垣市公共下水道事業が始まります。それに伴い、受益者分担金（案）について提案されました。

国の通知に基づき建設分担金の算定を行うと、18万円/戸となり、それに都市計画税相当額の5万円/戸を加えて、23万円/戸の案が出されていましたが、現在の厳しい経済状況の中で利用者の負担が大きくなり、下水道への接続を推進するため、再検討を行い、公共ます相当額の6万円/戸を減額して、17万円/戸とするものです。



大垣の文化財を守る 消防演習



1月24日、文化財消防演習が円通寺で行われ、私も出席しました。

円通寺は大垣藩主・戸田家の菩提寺で、藩主歴代肖像画や、円通寺山門が市の重要文化財として指定されています。当日は、円通寺関係者や消防組合、地元消防団、地元自治会などのみなさんが参加して、模擬文化財の持ち出しから初期消火、消防車による一斉放水まで行われました。

円通寺の山門 → （市重要文化財）

江戸時代に焼けて、再建され、その時に二度と火災に遭わないようにと、「水を噴く」シャチホコが据えられたと、松野住職のお話でした。

（名古屋城のように屋根の両脇に乗っているのがシャチホコです）



←初期消火訓練

地元自治会の自主防災隊員のみなさんにより、バケツリレーや消火器を使用しての初期消火訓練が行われました。